

2010 年度日本軍縮学会
(2010 年 8 月 28 日)

核兵器の役割の低減と国家安全保障

拓殖大学・海外事情研究所
佐藤丙午

はじめに：「核なき世界」と抑止に対する菅総理の発言

広島会見と長崎会見の論点：「核抑止が必要」発言と、「核なき世界」を目指すことの整合性
長期的な目標（核なき世界）に到達する過程における安全保障政策（核抑止への依存）

批判：「過程」で核抑止に依存することが、核の意義を強化する

「日本は非核三原則の原則を守る」 核兵器は米国に依存する（抑止及び攻撃）

論点 1：核兵器の役割を認めつつ「核なき世界」に到達する方策は何か

論点 2：核兵器の役割を低減させると「平和」な環境が出現するのか

「核なき世界」に向けた政策手段（特定の軍事力の役割の低下に関する歴史的考察）

- ・軍備の縮小に関する手段の分類（報復的：根絶・制約、単独：意図的怠慢・一方的措置、互恵的措置：二国間交渉・多国間交渉）
- ・リチャード・バーンによる分類（「核なき世界」に向けた政策課題）
 - 軍備の制限と削減：SALT や START（現在は二国間による措置）など（地理的に）非軍事化・非核化・中立化：非核地帯構想、核配備の制限など
 - 特定の兵器の規制や非合法化：ICJ の勧告など、（先制不使用・唯一目的化など）
 - 武器製造や移転の規制：NPT、不拡散レジーム、核セキュリティの向上
 - 法的制約（戦争遂行にあたり）：人道性、歴史的建造物等の保護など
 - 国際環境の改善：オバマ大統領による「核なき世界」演説
- ・核軍縮の手段と政策の優先順位（priority）をめぐる問題
 - 核兵器国同士の安定性の維持・核保有国の取り込み・不拡散・非国家主体等の核保有

「核なき世界」に至るプロセスの問題（3つの問）

- ・「核なき世界」の究極の姿は何か？
 - 核兵器製造技術の根絶（核兵器製造禁止に対する不可逆的措置を設ける）の困難さ
 - 核兵器が廃絶された後の核保有の影響力の問題
 - 核兵器に代わる「究極的」破壊兵器の出現（核を上回る兵器の出現）
 - 一からゼロへの移行問題（一カ国もしくは世界政府に核保有の権利を認めるのか）
- ・「核なき世界」へのプロセスをどのような政策手段で導くのか？
 - 報復的措置が可能なのは戦後の和平交渉の中で可能になる（核兵器国同士の通常戦争では報復的措置は可能にならず、核兵器が使用されると事態は手遅れ）
 - 単独措置（ロシアの意図的怠慢による核兵器数の減少 START 批判の要因の一つ）は戦略的安定性等に計算できない影響が及び
 - 多国間交渉の問題点（しかし多国間で合意されない限り軍備管理軍縮の効果は低い）
 - 核兵器国と非核兵器国の関心の相違
 - 非対称な核能力を持つ核兵器国間の利害関心の相違（交渉の目的が、戦略的安定性の確保ではない、もしくはそれを前提とするのは望ましくない）
 - 査察・検証措置の限界と、罰則措置をめぐる問題

- ・核兵器以外の手段で効果的な抑止を実現できるか？

「核の役割が小さい世界」と「核なき世界」：米国の安全保障戦略を中心に

- ・核兵器の役割の変化（安全保障政策における役割の低減自体を政策目標にする）が必要な理由

抑止や攻撃の面で核兵器を代替する兵器／手段が存在するのであれば、安全保障政策上、各国が核兵器に依存するレベルを下げることはできるのではないか

- ・核拡散の要因

米国との戦争において核兵器を保有しない（最小限抑止を確保していない）状態で戦争することはリスクが高いとの認識が高まる

核保有の誘因となる

前方展開拠点に対する攻撃を誘発し（同盟等に基づく関与がリアシユアランスや安定性ではなく、脆弱性の原因になる）人質に取られる可能性

核テロや発展途上国の核兵器取得の要因

米国など核兵器国の安全保障上の関与が後退・弱体化した場所の安全保障懸念の高まり

核保有の利害損得の計算がなされる・核保有の誘因

大国間政治の観点から、米国に匹敵する核能力を保有する必要

戦略的安定性

- ・核拡散の要因を軍備管理・軍縮で解決することは困難／抑止の機能不全

軍備管理・軍縮は一つ的手段。国際秩序の維持を考える必要がある

ブッシュ政権の軍備管理・軍縮政策とオバマ政権の多国間アプローチ

- ・代替兵器／手段

一般抑止（Conventional Deterrence）：Counter Force と Counter Value（報復的抑止と拒否的抑止の「手段」が増加し、軍事手段の柔軟性が向上）

信頼醸成（Confidence Building Measures）

宣言政策に対する信頼性の問題

- ・アジア太平洋の戦略環境と「核の役割の低減」

米中の戦略対話と「戦略的安定性」

戦略的に安定した状況の下で、周辺国に対する中国軍の挑発活動の活発化

宣言政策による政治的誓約と運用政策

AirSea Battle 構想と、構想の下での核兵器の役割

日本にとっての「核なき世界」

非核三原則と「核なき世界」

日米同盟と拡大抑止

以上